

Kyoto Business Design School

2018

京都 2018 ビジネス デザインスクール

Kyoto Business Design School

京都ビジネスデザインスクール (Kyoto Business Design School : KBDS) では、従来の常識が通用しなくなってきた時代に、新規市場を創出できる人材 (新市場創出人材) の育成に特化し、多様な人々が融合できる場の構築を通して、『モノやサービスを創る力』『顧客を創る力』『価値を創る力』の養成を目指しております。

平成30年4月21日(土)
10:00~18:00
定員100名 無料

～ オープニング記念講座 ～

エフェクチュエーション

10:00～12:00

【講師】敬称略



吉田 満梨 Yoshida Mari
立命館大学経営学部 准教授
神戸大学大学院経営学研究科
博士課程修了、首都大学東京
都市教養学部経営学系助教を
経て、2010年より現職。

吉田先生は、『エフェクチュエーション』とは、一言でいえば「優れた起業家を用いる意思決定の理論」のこと。つまり、起業家の中でも特に連続して何度も新しい事業を立ち上げている優れた起業家には共通の思考プロセスがあり、それを抽出したものが「エフェクチュエーション」である。』と語っておられます。

「エフェクチュエーション」という言葉は、伝統的な経営学における意思決定の論理が前提としてきた、因果推論＝「コーゼーション」の対概念として作られた造語で、その論理は、5つの原則(手段主導、損失の最小化、パートナーシップ、偶然の活用、コントロールへの集中)から構成されています。本講座では、マーケティングや企業の新規事業創出の文脈において、「エフェクチュエーション」が如何に有効なプロセスであるかを、判りやすく解説していただきます。「エフェクチュエーション」の論理に基づくことで、自らイノベーションに着手できない理由、すなわち、①「まだ機会を発見できていない」、②「明確なアイデアがない」、③「大きなリスクをとることはできない」、④「十分な資金がない」、⑤「私は起業家タイプではない」といった問題に対する見方が、いかに反転されるかを、順を追ってご説明するかわちで、「エフェクチュエーション」とは何か、そして、そこから何が学べるかを掴んでいただきたいと思います。

ビジネスモデルの作り方

13:00～18:00

【講師】敬称略



北原 康富 Kitahara Yasutomi
名古屋商科大学経営学部 教授
インテグレート・リサーチ株式会社
代表取締役社長

東京理科大学理学部応用数学科
卒業、早稲田大学アジア太平洋研
究科博士後期課程修了。1993年に
日本インテグレート株式会社を設立。

京都ビジネスデザインスクールでは、ビジネスモデルを思考し、相互にビジネスモデルの共通理解を深めるツールとして、「ビジネスモデルキャンパス(BMC)」を活用しております。

BMCは、世界で100万部を突破し、国際的なベストセラーになっている「ビジネスモデルジェネレーション(ビジネスモデル設計書)」の中で戦略的思考を視覚化した画期的なフレームワークとして紹介されています。同書(日本語版)の解説で、多摩大学大学院教授の紺野登氏は、「ビジネスモデルのイノベーションが世界の企業の関心を集めている。新製品開発や業務革新といったイノベーションは競争上不可避だが、それだけでは利益を生まなくなっているからだ。とくにモノづくりを強みとして標榜しつつも苦戦中の日本企業には、顧客価値提供のあり方自体を変えるビジネスモデルの革新は決定的に重要だ。アップルの成功の裏にも単なるモノの付加価値でないビジネスモデルがあった。」や、「本書の肝はわかりやすいグラフィックに象徴されたデザイン思考だ。ビジネスモデルは従来の理論分析的な戦略思考からは出てこない。」「ビジネスモデルは机上の作業ではなく、ワークショップやプロトタイピングなど、当事者や顧客との対話の現場での試行錯誤によって具現化するのだ。」と仰っています。

本講座では、事業価値評価、戦略意思決定、イノベーションと創造性、チームワークなどの分野で、多くの企業研修の実績を有する名古屋商科大学教授の北原康富先生をお招きし、デザイン思考によるビジネスモデルの創造プロセスを、BMCを活用しながら体験していただきます。

申込み

<http://kyoto.ds.school.jp/index.php?contact>